
とある科学の黒光物質《ブラックマター》

遊才 サクマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある科学の黒光物質
ブラックマター

【Nコード】

N4618Z

【作者名】

遊才 サクマ

【あらすじ】

学園都市には7人のレベル5がいる。しかし他にもう1人、闇で孤独に生きてきたレベル5がいた。彼の名は…天上翼^{てんじょうよくば}。科学と天上が交差する時物語は始まる！！書きたくなったので書いてみました。文章の構成力が皆無ですがどうぞよろしく願います。

人物紹介

人物紹介

・天上翼 てんじょうしほ レベル5 14才 A型

容姿

・肩まで伸びた黒髪と黒い瞳を持つ純粋な日本人。顔は整っておりイケメンの部類に入る。

生い立ち

・3才で両親に学園都市に捨てられて置き去りとなり各地の研究施設でさまざまな実験をさせられた。5才の時に未元物質発現計画ダイクマターはつげんけいかくに参加し唯一生き残り、未元物質ダイクマターよりはるかに劣る能力である黒光物質ブラックを発現。実験を行っていた研究所を発現した能力で破壊し、それからは暗部に身を置いている。

性格

・主に決められたターゲットのみを抹殺するように心がけている。但し、「第2位の失敗作」と言われるとキレてなりふり構わず相手を殺す。ちなみに実験の影響でキレると口調が第2位そっくりになる。

身体能力

・自らの能力だけに頼ることなく体を鍛えている。さらに多少の武術もできるのでそこらのチンピラ程度なら能力を使うこともなく勝つことができる。

しかし、実験の影響で目がほとんど見えていないため、相手を倒す時は主に聴覚に頼っている。そのせいか聴力は並の人間の2、3

倍はある。

能力　↳ 黒光物質ブラックマター　↳

・この世には存在していない物質である黒光物質を作り出し操ることができる。能力の発動時には背中から6枚の黒翼が出現する。
また、ほかの物体に黒光物質を装着させることもできる。

人物紹介（後書き）

遊才サクマと言う若造です。なんか小説が書きたくなったので大好きなところをここに書いてみます。あと自分は学生なので更新が遅くなると思います。

任務

学園都市のとある路地裏……

「ハア、ハア……。畜生！な、何で俺らがこんな目にあわなくちゃならねーんだよ！」

数分前……、

今日もいつもと同じように仲間とそこらの気の弱そうな学生を見つけて財布を奪っていた。今日もいつもと同じように過ぎていくと思っていたがそれは間違이었다。財布を奪い終わりこれからどこかへ行こうとした時であった、ふと後ろを見てみると少年が立っていたのだ。その少年の第一印象は見た目は普通の中学生と言った感じであったが、どこことなく不気味な雰囲気漂わせている感じだった。俺達5人が少年を見ていると、少年は俺ら全員が自分を見ているのを確認する様な動作を取った後唐突にこう言ってきたのだ。

「まあ悪いけど……殺すぜ。」

その一言が言われた瞬間に俺の左に居た奴が消えた。そう表現する以外なかった。少年の手から黒い物が飛び出したかと思ったら、左に居た奴は消えた……いや正確に言うとは殺されたのだ。

「ひ、ひいゝ！！」

「おいおい、挨拶程度でびびってんじゃないよ。それでもお前ら不良か？」

「ば、バケモンだ！逃げろ！！」

誰かがそう言って全員が急いで逃げ出した。しかし少年に対して背を向けたことが間違이었다。少し走り出すのが遅かった1人がすぐに少年の格好の餌食となった。

「じゃ、あばよ。」

「や、やめ……。」

ギューイイイイイイン……

少年は右手をそいつに向けて、先ほどの黒い物質を集めていた。集め終わった瞬間に右手にあったソレは放たれた。

「ブラックレーザー
黒光光線」

ドーーーーーン!!

ものすごい轟音の後に黒い光線が放たれたところを見ると地面がえぐられていて、その周りに肉片と大量の血がとんでいた。

「ハハッ！さあて次はどいつが死ぬ？」

「く、くそが……!!」

1人が勇敢にも少年に刃物をむけながら向かっていった。しかし、勝負は瞬く間に決着がついた。

「いいね。命知らずで向かってくるバカ野郎が俺が1番好きなタイプだ。お礼と言っちゃあ何だが……全力で相手してやるぜ!!」

すると、少年の背中から巨大な何かが出てきた。よく見るとそれは六枚の黒い翼であった。その姿は威厳に満ちていると同時に恐怖を感じさせるようであり、たぶんこの姿を見たもの全員がこう言うだろうと思った。

「あ、悪魔！」

「あゝ。悪魔みてえだつてのは自覚してる。」

そう言つと少年はその黒い翼をはためかせ空を飛んだ。そしてこっちに向かって六枚の翼を展開した。

「喜べよ。そんじゃそこの不良のお前らが俺の黒翼を見れたことをな！」

ギューイイイイイイイイン……！！

また、少年が黒い物質を集め始めたが今回は手ではなく、六枚の翼の1枚1枚に集めていた。しかも先ほどの攻撃などがかわいく見えるくらい1つ1つが巨大になっていた。

「終わりだ。
ブラックフェザーレーザー
黒翼の光線」

ドカーーーーーー！！！！

放たれた攻撃は路地裏を木っ端微塵に破壊した。少年に向かっていた奴は言うまでもなく攻撃を食らい、俺ともう1人も爆風で体が宙に浮き地面にたたきつけられた。

「グアッ！」

「ガハア！」

地面の落下のせいで体を強打してうめき声がでた。心の中で「クソ！」と思いながら体を起こしたら少年が目の前に立っていた。

「あとは、お前ら2人だけだな。」

「く、くそ。こんなところで死ねるか！」

俺はその瞬間走り出して逃げ出した。仲間が1人いたがそんな悠長なことを言っている場合ではなかった。

「逃げんのか。おもしれえ！……つとその前にお前はここで終わるだ。」

「や、やめてくれ！た、たのm……。」

グチャ！

後ろは振り向かなかったがその音が聞こえた瞬間そこに倒れていた奴は死んだと確信できた。

「ハア、ハア……。畜生！な、何で俺らがこんな目にあわなくちゃならねーんだよ！」

「おいおい、そんな風に悲しくなるなって。ちゃんとあの世に送ってやるからよ！」

刹那、少年が俺のすぐ隣にきていた。そうして黒い物質を手に纏った状態で俺の腹をおもいつき殴ってきた。

「ガ、ガフツ！！」

殴られて俺はその場に崩れ落ちた。もはや、この少年から逃げることはできなくなった。

「お前で最後だ。まあ、最後まで生き残った報酬として何でも一つ俺に質問してもいいぜ。なんかあるか？」

「お、おまえのその能力は何なんだよ。」

ここは、学園都市。超能力が実在する街だ。この街でこんなことが出来るのは超能力者以外に考えられなかったからだ。

「普通は他人に俺の能力を話すことはないが冥土の土産に教えてやるよ。俺の能力は黒光物質^{ブラックマター}。この世には存在しない黒光物質^{ブラックマター}って言う物質を作り出し、操ることができる能力だ。ちなみに黒光物質^{ブラックマター}ってのはダイヤモンドを凌駕する硬度を持っている上に融点とか沸点とかを持ってなく決して溶けることのない物質だ。まあ、俺の意思で固体の状態にしたり、さっきのレーザーみたいな状態にすることはできるんだけどな。」

「そ、そんな能力が……、」

ソレが本当ならば自分はこの少年には到底勝つことができないと思った。

「ま、話は終わりだ。じゃバイバイ。」

その言葉を言い終わった瞬間に少年から黒い光線が放たれた。

「く、くっそーーーーー!!」

ドーーーーーン！

『ご苦労だった。黒光物質ブラックマターと言いたい所だが……、ふざけるなよ！あんな風に能力を使うバカがどこに居る！あそこの近くでは路地裏から轟音が聞こえてきたという事でアンチスキルが動きかけたんだぞ！』

「で、でも動かなかったんでしょ？」

『上が直々にアンチスキルを抑えたおかげでな！お前という奴は暗部に居ながら何をしている！罰としてもう1件別の依頼をして来い。』

「えゝ！やだ。」

『やだじゃない！依頼の内容と場所はすでに送信したから、今日中に片付けるように。じゃあな。』
プツ、ツーツー……

「はあ、不幸だなあゝ。」

そう言いながら天上翼てんじやうつばは肩を落としていた。

とある寮……

「ヘクシユン！ー！」

「うゝ、何だとうとう風邪を引いちゃったか。はあ、不幸だ。」
そう言いながら上条当麻かみじやうまは肩を落としていた。

任務（後書き）

なんかかんやで書いてみたもののものすごく下手だなあと思いました。次、いつ投稿できるかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4618z/>

とある科学の黒光物質《ブラックマター》

2011年12月16日23時55分発行